

## ドメニコ・スカルラッチィ(Domenico Scarlatti,

1685年10月26日 – 1757年7月23日)は、イタリアのバロック音楽作曲家であり、主に鍵盤楽器のための作品で知られています。彼の生涯、作品、そして音楽に対する独自のアプローチは、鍵盤音楽の歴史において重要な役割を果たしました。

### 生涯

スカルラッチィは、ナポリに生まれました。彼の父、アレッサンドロ・スカルラッチィも有名な作曲家であり、彼は幼少期から音楽の才能を開花させました。ドメニコは非常に早くから音楽のキャリアをスタートさせ、ナポリ、ローマ、リスボン、そしてマドリッドで多くの役職を歴任しました。

彼は1709年からローマで活躍し、オペラの作曲家としての地位を確立しましたが、1720年代にポルトガルに移り、リスボン王宮の音楽教師を務めました。そこで彼はポルトガル王女バルバラに音楽を教え、その後、バルバラがスペイン王フェルディナンド6世と結婚すると、スカルラッチィも彼女と共にスペインへ移住しました。スペインでの生活が彼の作曲活動に大きな影響を与え、彼の作品にスペインの民族音楽の要素が取り入れられるようになりました。

### 作品

スカルラッチィの最も有名な作品は、555曲にも及ぶソナタです。これらは主にチェンバロ(またはクラヴィコード)のために書かれ、単一楽章の形式がほとんどです。彼のソナタは、音楽的に非常に独創的であり、バロック音楽から古典派音楽への移行を示しています。

### 鍵盤ソナタの特徴

スカルラッチィのソナタはほとんどが単一楽章の短い形式ですが、その中に多彩なリズム、和声、技術的な挑戦が詰め込まれています。

### 1. 即興的なスタイル

多くのソナタは自由な形式で、即興的な感覚があり、対位法や繰り返しを巧みに使っています。フレーズは複雑でありながらも、旋律的で親しみやすいものもあります。

### 2. 大胆な和声

スカルラッチィは伝統的なバロックの和声を超え、革新的な半音階進行や不協和音を取り入れました。これは当時としては非常に先進的なアプローチであり、次世代の作曲家に大きな影響を与えました。

### 3. リズムの多様性

スペインでの滞在がスカルラッチィの音楽に影響を与え、彼のソナタにはスペインの民族音楽的なリズムや舞踊の影響が見られます。特にフラメンコのようなリズムが盛り込まれ、情熱的でダイナミックな表現が特徴です。

### 4. 技術的な難易度

彼のソナタは演奏技術的に非常に高度であり、速いパッセージ、クロスハンド（両手を交差させる奏法）、大きな音域の跳躍などが頻繁に登場します。これにより、スカルラッチィのソナタは演奏者にとって非常に挑戦的な作品となっています。

## 代表的なソナタ

- K.1 (D minor)

このソナタは軽快なテンポと優雅な旋律が特徴で、スカルラッチィの典型的なリズム感と和声の自由さが感じられます。

- K.27 (B minor)

スカルラッチィの中でも特に有名なソナタの一つで、劇的な対位法と緊張感のある展開が特徴です。

- K.141 (D minor)

このソナタは、非常に高速な連続音と激しい情熱的なリズムが特徴で、フラメンコのような民族的な要素が色濃く反映されています。演奏には高度な技術が必要です。

- K.380 (E major)  
華やかな旋律と軽快なリズムが特徴的なソナタ。シンプルでありながらも印象的な構造を持ち、演奏者にも親しみやすい作品です。
- K.455 (G major)  
明るい音調と躍動感あふれるリズムが魅力で、スカルラッチェの音楽的エネルギーを感じさせる作品です。

## スカルラッチェの革新

スカルラッチェのソナタには、多くの革新的な要素が見られます。彼は、従来の鍵盤音楽の枠を超え、次のような特徴を持つ新しいスタイルを創り上げました。

1. **大胆な和音の進行** - 不協和音や半音階的な動きを積極的に取り入れ、感情的な緊張感を生み出しています。
2. **リズムの多様性** - フラメンコの影響を受けたリズムや、ギターのような打楽器的なリズムが頻繁に登場します。
3. **クロスハンドの使用** - 両手を交差させて演奏する技法は、演奏者に新しい技術的課題を課し、同時に楽曲に視覚的な魅力をもたらしました。
4. **スペイン音楽の影響** - スペイン特有の音楽的な要素(民謡や舞踊のリズム、フラメンコ風の旋律)がソナタに取り入れられ、彼の音楽に独自の風味を加えました。

## 思考と音楽的影響

スカルラッチェは、バロック音楽の伝統に根ざしつつも、新しい時代への扉を開くような作品を生み出しました。彼の音楽には、形式に対する自由なアプローチが見られ、即興的な要素や実験的な和声進行が特徴です。彼は、音楽を純粹に楽しむこと、そして演奏者の技術を最大限に引き出すことに重点を置いていたと考えられます。

彼の影響は、彼の同時代の作曲家や、後の古典派、ロマン派の作曲家たちにまで及んでいます。特に、彼の大胆な和声進行やリズムの革新は、後の世代の音楽家たちに新しい視点を提供しました。

## 晩年と遺産

スカルラッチェはスペインで晩年を過ごし、そこで多くのソナタを作曲しました。彼の作品は、当時の他の作曲家たちとは異なるスタイルを持ち、鍵盤楽器の可能性を広げるものでした。彼の音楽は、クラシック音楽史において重要な位置を占め続けており、特にピアニストにとっては技術的、表現的な挑戦として今でも愛され続けています。

彼の革新性と独創性は、後に多くの作曲家や演奏家に影響を与え、バロック音楽から古典派音楽への橋渡しとなりました。